

1982

5 | 16 (日)

1:00P.M.開場 1:30P.M.開演

日本教育会館一ツ橋ホール

Amici Del Canto = 146

主催 ★混声合唱団「四季」★女声合唱団コーロ・ファンタジア★柴又帝釈天附属ルンビニー混声合唱団
★女声合唱団こーろ・えれがんつぁ★登戸混声合唱団★ひびき混声合唱団

●ごあいさつ

ふとふり返ると9年の歳月が長く帯のように続き、銀色に鱗を光らせて百数十の若鮎達が歌っていた。

始め、流れは岩にしみ、枯草のかげで細かった。しかし、5、6人の歌仲間は、今こんなにふくらみたい力強い流れとなっていたわむれている。その歳月の中で、誰しもが体験するであろう苦難と歓喜を、どの団も味わいつつ。

初めて持つことのできた演奏会の感激。一丸となって手にする事のできたコンクールでの賞。音楽会での子供の輝く瞳。何年もかけてやっと軌道に乗ったかに見えた頃、突然襲って来た団崩壊の危機。退団していく仲間との別れの涙。そして団再建へ努力する毎日。これらの喜びや苦しみが、今は全国各地で合唱を続ける仲間を含む五百数十名の団員によって受けつがれ今日を迎えた。私は決して技術的にのみ優秀な団を創りたいとは思わない。音楽とは何か、合唱団とは、どうあるべきかを常に考え、活動の源とする中で、何をどう歌うかを見い出していくような団を望んできた。

肉体から直接出る音は即、自己の叫びであれば、歌うという行為は、その人自身をありのままにさらけ出すことになろう。持って生まれた自分の声で、美しいものは美しいと精一杯、積極的に歌え、しかも、それを生かしつつ技術も磨いていけたら素晴らしいと思う。

今日、こんなに素晴らしい人達と共に音楽のできる喜び。とても言葉には替えられない感謝の気持で一杯である。

片野秀俊

●メッセージ

日唱の20年の歴史の中で—— 翔け若鮎のように

片野君が歌うようになってから早くも13年になる。プロの中でも、もうベテランだが、なんととっても若々しくいつも輝きを内に秘め光っている。音楽には常に若さが必要であり、それが魅力でもある。それは年齢とは関係なく、心の新鮮さともいうのであろうか。彼もそのような魅力ある音楽家の一人である。こういう人が指揮をすると不思議と和が生れて輪が出来やすい。合唱の指導者には特に大切な要件ではないだろうか。

今日もここにいくつかの輪が集って、大きな輪が生れた。聞けばこの会は各団から委員が出て協力しながら運営しているそうです。難しい問題もあるでしょう。しかし音楽は、それを乗り越えさせる力を与えてくれる。歌っているみなさんが、心の新鮮さを持つ程に、その力は大きく豊かなものとなって若鮎のように大空にはばたいて行くだろう。

Amici del Cantoが1000にも2000にもなることは夢ではありません。これからもみんなで愉快地、そして美しく歌って下さい。

久住祐実男 日本合唱協会代表

合唱の仲間へ

片野ファミリーとも言えるいくつかの合唱団が、一堂に会して演奏会を持つなんて、なんとも素晴らしく羨ましいことでしょう。

片野君は、プロの合唱団員としてすでに13年、ベテラン中のベテランです。そしてリーダーでもあります。その、プロでの経験があればこそ、いくつもの合唱団の要求に応えられているのでしょう。

でも、片野ファミリーの皆さんにお願いします。どうか彼が、これ以上すり減らないように（それでなくともガリガリですのに）、暖かい気持でバックアップし、育て上げて下さい。より素晴らしい、合唱の喜びの為に。

そして片野君には、音楽を素直に感じる「心」に、一層の磨きをかけつつ、なによりも明るさと暖かさを求めつづけるよう、祈っております。

今日のこの会が、楽しい会でありますように。

増田順平 日本合唱協会常任指揮者・全日本合唱コンクール審査員

片野秀俊さんとの出会い

片野秀俊さんとは、もう何年も前になりますが、私がブラームスばかりの合唱作品演奏会を始めて、その第1回目に日唱（日本合唱協会）に歌ってもらった時からです。日唱というプロ合唱団は、ご存じのように声楽専門家の集りです。その中でなぜか今でも片野さんの歌っている姿が、深く心に残っています。ブラームスの重厚な渋味のある、特にバリトンに必要な音色とひびきを日唱は出してくれました。片野さんの力がとても大きかったように思っています。その後も彼の音楽性を見込んでブラームスを手伝ってもらったことがあります。

片野先生を中心に集まった合唱団の皆さんの、いろとりどりの楽しいコンサートは、プログラムを見ただけで楽しくなります。片野さんの音楽性が、そして皆さんの音楽を愛する豊かな人間性が、きっとホールいっぱいにはばらばらハーモニーでひびきわたることと信じています。

村谷達也 全日本合唱連盟常任理事・日本合唱指揮者協会副理事長

●プログラム

指揮／片野秀俊 ピアノ／上原玲子

混声合唱団「四季」

パレストリーナ作曲／「ミサ・プレヴィス」より「キリエ」「グロリア」「アニュス ディ」

女声合唱団コーロ・ファンタジア

忘れな草・時無草・ほたるこい・ねむの花

柴又帝釈天附属ルンビニー混声合唱団

高田三郎作曲／混声合唱組曲「水のいのち」より「水たまり」「海よ」

休憩〈10分〉

——皆でいっしょに歌いましょう——

女声合唱団こーろ・えれがんつぁ

三善晃作曲／女声合唱のための「三つの抒情」より「ふるさとの夜に寄す」

アルディーティ作曲／「春のワルツ」

ひびき混声合唱団

中田喜直作曲／混声合唱とピアノのための組曲「都会」より「若者たち」「都会」

刈千切唄・そうらん節

登戸混声合唱団

全体合唱

「合唱讃歌」

混声合唱組曲「旅」より「行こうふたたび」

カンタータ「土の歌」より「大地讃頌」

●プロフィール



指揮／片野秀俊

昭和45年 東京音楽専門学校を卒業。プロ合唱団「日本合唱協会」に入団。合唱演奏活動を続ける一方、オペラ、リート等のソリストとしても活躍。指揮者としてのステージも数多く、本日演奏する各合唱団をはじめ各地の合唱団や、邦楽アンサンブル・オーケストラの常任指揮者・客演指揮者を務め、情感あふれる躍動的棒さばきは好評を得ている。

指揮法を山田一雄・増田順平両氏に、声楽を下八川圭祐・天野秋雄・工藤博の各氏に師事。現在、日本合唱協会団内指揮者・コンサートマスターを務める。



ピアニスト／上原玲子

国立音楽大学器楽学科ピアノ科専攻卒業。東京コンセルバトワールピアノ伴奏法科マスタークラス終了。ピアノを藤沢克江・池沢朗子両氏に、声楽を清水明子氏に師事。また、東京コンセルバトワール在学中よりピアノ伴奏法室内楽を岩崎淑氏に師事。井内音楽教室ピアノ講師、本日演奏する各合唱団と女声合唱団「グループ鮎」、「砂」にてピアノ伴奏を務める。



♡混声合唱団「四季」

1. 女性軍のパワフルさはすごい。実権を全部握っている。その実態を克明に記すことはこわいのでやめたい。しかし近頃男性軍への新人の参加がめざましく反響が注目される。
2. 可愛い陽子ちゃん、里美ちゃんから、みんなが敬愛する繁子さんまで、年齢は十歳も違うけど、みんな友達のようなよう。
3. ユニークな個性の団員も多い。Mさんは新人が入るとイの一番にいて「私が会計ヨ。」とニコット笑う。

Oさんは難かしいクラシック以外は全然分からない技術部長である。(なんとこの二人は今秋結婚。みんなで拍手。)それに、旦那さんを家において親子三人で入っているE一家。こんなメンバーが、ワイワイガヤガヤ楽しく愉快にやっているのが混声合唱団「四季」。そして来年は10周年です。(四季新聞・K記者)

●練習日/毎週木曜 6:30~9:00P.M. 月1回 ヴォイストレーニング

●場 所/豊島区立駒込社会教育会館

●会 費/入会金1,000円 月々2,000円

●連絡先/皆川 TEL 811-7702 望月 TEL 971-4216

《曲目解説》パレストリーナは、イタリアのルネサンスを代表する音楽家。フランドル楽派の作曲技法に学び、美しい旋律と充実した和声が特徴の洗練された音楽を作った。ミサ・プレヴィスは、一部をのぞいて四声の、自由なモチーフが展開されるミサ曲で、わが国での演奏も多い。



♡女声合唱団コーロ・ファンタジア

川崎市教育委員会・多摩市民会館主催 成人学校コース、講師片野秀俊先生の10回講座に出席し、特に感動した有志13名は、幸にも先生の御快諾を得て、昨年4月、喜々として、『女声合唱団コーロ・ファンタジア』を結成し、ここに初ステージを踏み運びとなりました。先生はじめ諸先輩の御尽力により、風のように初参加させて戴きます心情は、その喜びと恥らいが交錯し、一同、初恋の想いにも似た胸の痛みでございます。

日頃は、心ひろびろと愛に満ちた調べを、ハモれる様になりたいと願いつつ、互に敬愛し信頼し合い、そのハーモニーの輪を豊かに大きく育てて行きたいと、せつに願っております。テクニックはともかくメンタルハーモニーは抜群、と自賛する真にハッピーなメンバーです。

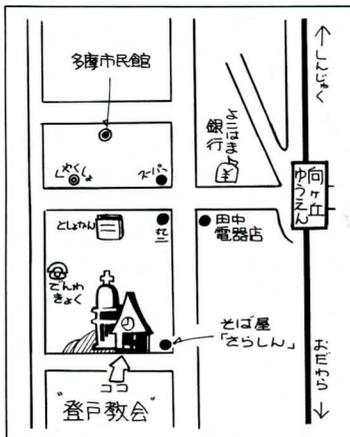
●練習日/毎週火曜日 10:00A.M.~12:00P.M.

●練習場/川崎市多摩市民会館 登戸教会

●会 費/入会金1,000円 月々2,500円

●連絡先/吉田朋子 TEL 044-955-6707 田中テル子 TEL 044-922-3839

《曲目解説》 忘れな草 ♣花によせて 忘れなと 君におくる わがおもい
時無草 ♣摘もたもうな やさしく ひなたに のびてゆくみどり
ほたるこい ♣昼間は草葉の露のかげ 夜はポンポン高ちようちん
ねむの花 ♣夢を盛りあげ 房のような花 夢をすすめる ねむの花





♡柴又帝釈天附属ルンビニー混声合唱団

私達、帝釈天附属ルンビニー混声合唱団、生まれも育ちも、葛飾柴又です。「ルンビニー」って、どういう意味か知ってる？ これは、仏教の開祖釈尊の生まれたもうた花園の名なのです。ルンビニーを、春の花に例えるなら、バスは、落ち着いた花、れんげ草。

瑠璃色に咲くつゆ草の花は、テナー。ソプラノは、優しく清楚に咲く、かすみ草。そして黄色に明るく咲くたんぽぽは、アルト。すべて、華やかではないけど元気一杯咲くでしょ。そんな花たちを、大きく育てよ

うとする大地の土は先生……。そして、優しい春の光は、住職様……。こんな恵まれた環境の中で、葛飾区文化祭、都民合唱コンクール出場、今年三月には、第一回演奏会開催と、次々、花開くことができました。花の持つ新鮮さを、いつも心に持って、この下町、柴又で歌い続けたいと思います。

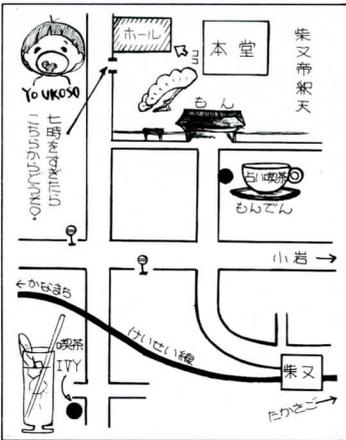
●練習日/毎週金曜日 6:30~9:00 P.M.

●練習場/柴又帝釈天ホール

●会費/入会金1,500円 月々1,000円

●連絡先/佐藤紀恵子 TEL 673-5623

《曲目解説》 様々に形を変えて地球を巡る水。留まること無く、雨、川、海と成る永遠の運動。人々に潤いを、清らかさを、激しさをもたらす水。亡びること無くとしえに蠢くその活力に、儂い存在である我々人間は、大いなる命を感じるのです。不可思議な水の命への讃歌を捧げるのです。



♡女声合唱団こーろ・えれがんとあ

私達の合唱団は、昭和54年9月に、主にPTAコーラス関係の主婦約20名によって発足しました。その後順調に発展をして、現在では会員も30余名になりました。合唱団の名前は、作曲家萩原英彦氏の音楽用語Eleganza からとり「やさしく優雅に端麗に」という意味です。団名そのままにエレガント？な何よりも歌うことが好きなレディー達が毎週金曜日に集って充実した時を過しております。時には脱線して喫茶店での井戸端会議ともなりますが、何といてもPTAコーラスでは得られない、より高く、より深い音楽性が自分達の日頃の活動を通して身につけて行くのはとても大きな喜びです。歌と友情のハーモニーの輪は、これからは益々豊かになって行くことでしょう。

●練習日/毎週金曜日 10:00A.M.~12:00P.M.
●練習場/大塚社会教育会館(毎月第1、第2)・駒込社会教育会館(毎月第3、第4)

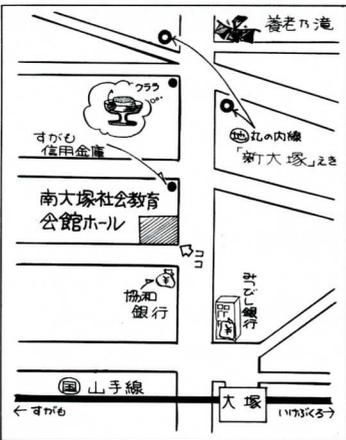
●会費/入会金2,000円 月々2,500円

●連絡先/児玉和子 TEL 986-4050

●練習日/毎週金曜日 10:00A.M.~12:00P.M.

●練習場/大塚社会教育会館(毎月第1、第2)・駒込社会教育会館(毎月第3、第4)

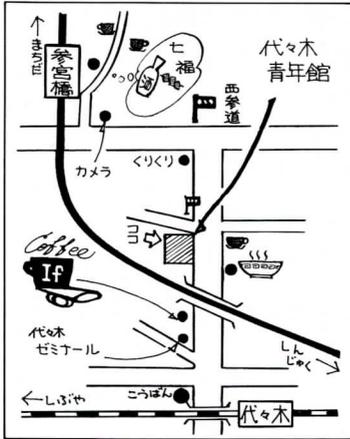
《曲目解説》●「ふるさとの夜に寄す」 1961年、三善晃が日本女子大合唱団の委嘱により作曲した初めての女声合唱曲。「オンディーヌ」の水の精たちのコーラスのように作曲されています。●「春のワルツ」 イタリア語で「口づけ」という意味で、コロラトゥアソプラノの独唱曲として作曲されたものです。





♡ひびき混声合唱団

1976年にエーデルワイス・オーケストラの「第9」演奏会のために集まった「エーデルワイス・アカデミー合唱団」のメンバーが残って「エーデルワイス混声合唱団」として活動を開始、一昨年「ひびき混声合唱団」と改称し新たなスタートをいたしました。団員は女学生、保母、そして天ぶら屋のおじさんまで、19才から4?才と様々です。毎週土曜日の夜には代々木の練習場が集まり、日頃のストレス解消とばかり大声を張り上げております。練習が終わるといつもの喫茶店でおしゃべり、二次会は隣のやき鳥屋で2~3杯、うちの合唱団は、歌より酒かな?



おしゃべり、二次会は隣のやき鳥屋で2~3杯、うちの合唱団は、歌より酒かな?
 昨年は、5月に施設を訪ねてのボランティアコンサート、7月に都民合唱コンクール出場、そして10月に第1回定期演奏会を開催致しました。

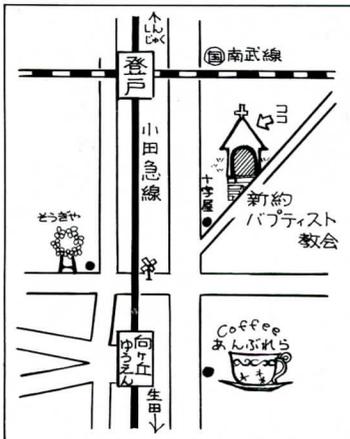
- 練習日/毎週土曜日 6:00~9:00 P.M.
- 練習場/小田急線 参宮橋下車 代々木青年館 (渋谷区民会館4F)
- 会費/入会金1,000円 月々2,000円
- 連絡先/柴 三義 TEL 376-4711

《曲目解説》 「都会」は第21回芸術祭参加作品としてNHKの委嘱で1966年8月に作曲され、芸術祭奨励賞を受賞した曲です。全体は、星、ふりむくな、若者たち、子守唄、都会の5曲から成り、都会のもつスケールの大きさや冷たさ、美しさをピアノと合唱で表現しています。



♡登戸混声合唱団

毎週火曜日7時、一人二人とやって来て膝を曲げたり腕を廻したり(ウッ。イテテと言いつつ)準備運動が始まる。さて本日の声の調子はア(ウウム。グーグー)という所で発声練習。アアアアアアアアアア(やはりできがいい)と突然、「腹筋は」「あごをひいて」と一人一人に注意が始まる。そのうちに聞き(?)かねてか先生があごを持って「力をぬいて。そうそう」と個人レッスン。あまたある団の中で、片野個人レッスン教室を行っているのは登混だけだろう。



少人数の利点か。

練習後は喫茶店でミーティング。

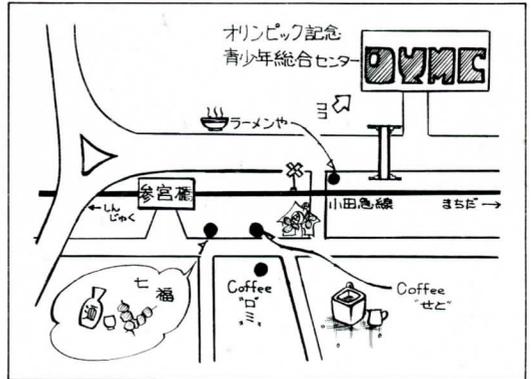
「ピラはどこへ配ろうか」「ああ印刷してもいいよ」印刷屋さんがあるので心強い。「ネェ。宣伝用のハガキは出した」と相沢さんの一言。「まだ?この前言ったでしょう。モウ」と再びキツイ一言。まだまだ少人数の団だけに一人一人の責任も重い、それだけに楽しいミーティングである。

登混は、うたう楽しさと合唱団をつくる楽しさを合わせもった若い合唱団である。

- 練習日/毎週火曜 7:00~9:00 P.M.
- 練習場/小田急線向ヶ丘遊園地駅 (又は小田急線・南武線登戸駅) 下車
新約バプティスト教会 TEL 044-911-5219
- 会費/入会金1,000円 月々2,500円
- 連絡先/相沢敬子 TEL 044-933-7338 高松昭一 TEL 044-922-4755

今回は都合により参加できませんでしたが、同じ片野先生の御指導のもとに、合唱活動をしている私たちの仲間を御紹介致します。

♡混声合唱団コーロ・ファミエ



家族のように気楽に睦まじく歌いたいという意味で、「コーロファミエ」という名前がつけられました。その名に恥じずなごやかに練習を続けています。今年は、コンクール、夏合宿、第五回定期演奏会と予定は組まれておりますが、何といても団員の増加が先決問題で募集にやっ気になっているのが実状です。

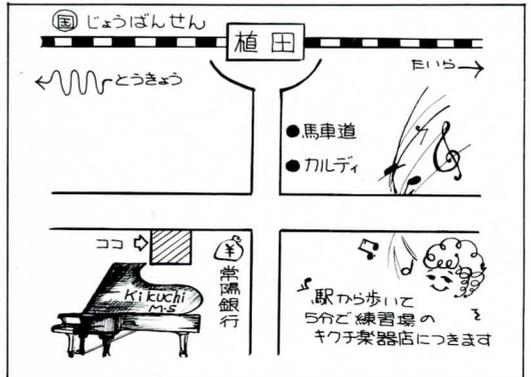
少人数ながらも、歌を愛する心、自分達の合唱団は自分達で育てようとする心は、みなさんと同様に人一倍も

っています。今回参加できませんでしたが今後ともよろしくおねがいします。

練習曲「島よ」津軽の音素材による混声合唱「四季」

- 練習日／毎週月曜日 6:30~9:00 P.M.
- 練習場／オリンピック記念青少年総合センター
- 会費／入会金 1,000円 月々 2,000円
- 連絡先／平 義幸 TEL 417-5826

♡女声合唱団コールしおさい



一昨年9月初めに誕生、四カ月の準備期間を経て昨年1月に役員を決めるなど、出来たてホヤホヤの合唱団です。メンバーの自慢は月に1、2回わざわざ東京から指導に訪れる片野秀俊先生です。「勿来地区にも本格的な、しっかりしたコーラスグループを育てたい」と若い情熱をそそいでいらっしゃいます。前会長の五十嵐澄江さんは窪田町で琴を教える先生で最近では琴も洋楽の傾向を帯びて歌も歌うので正式な発声法を習いたいという動機で入団されました。会員は20代から50代までのお母さんたちで「たまに声を出せば、美容と健康にもいいだろう」という気持ちで入った人がほとんどだったが、今では片野先生の

熱気、迫力に引き込まれて、毎週一回2時間半の練習が待ち遠しいのです。現在の団員は25人余りで、秋にはぜひ発表の機会を持ちたいと皆な大張り切りです。

- 練習日／月に2回火曜日 10:00 A.M.~12:00 P.M.
月に1回日曜日 1:00 P.M.~3:30 P.M.
- 練習場／キクチ楽器店2階
- 代表／助川千子
- 連絡先／キクチ楽器 TEL 02466-3-3556

●全体合唱

□合唱讃歌

平井 康三郎 作詞・作曲

喜びの歌声よ 歌のしらべよ
 若き日の感激に胸は踊るよ
 胸をはり まゆをあげ
 リズムあわせ 高らかに 我ら歌わん

タ ランタラランタララン
 タ ランタラランタララン
 タ ランタラランランラ
 ランランラ ランランラン
 タ ランタラランタララン
 ラ ランタラランタララン
 ララララ ラ ランランラン

美しきメロディアの 歌のひびきよ
 豊かなるハルモニアみなぎる力
 はりのある 歌をあげ
 心あわせ 高らかに 我ら声わん

※ くり返し

いざゆかんほがらかに くつ音高く
 踊る胸いさむ足はずむ心よ
 かたをはり うでを振り
 歩調あわせ 青空に 我ら歌わん

タ ランタラランタララン
 タ ランタラランタララン
 タ ランタラランラ
 ランランラ ランランラン
 タ ランタラランタララン
 タ ランタラランタララン
 タ ランランランラン ラ

いざ友に青春の歌を歌えや、

□混声合唱のための組曲「旅」より「行こうふたたび」

田中清光 作詩・佐藤真 作曲

この曲は、昭和37年度芸術祭参加作品として、日本放送の依頼により作曲され、広く一般に歌われるよう考慮されている。ちょうど同じ頃、カンタータ「土の歌」も作曲された。「行こうふたたび」は、組曲「旅」全7曲の終曲である。

語ろう 美しい旅の日を 思い出は あまくかなしく
 はかなく さびしく 心の傷を
 くりかえし 撫でるとも

行こう ふたたび 旅立とう
 われらのまなかいに 白雲ながれて
 われらの心は希望にもえたつ

ああ 未来は明るく輝やき
 いまこそ 旅をおもう 行こう 美しい旅に
 行け 旅に いまこそ、 憧れに になわれて

□混声合唱のためのカンタータ「土の歌」より「大地讃頌」

大木惇夫 作詩・佐藤真 作曲

1962年 作曲者が「東京芸大専攻科」に在学中、日本ビクターの依頼で作曲したもので、「大地讃頌」は、このカンタータ「土の歌」全7曲の終曲である。原曲はオーケストラと混声合唱のために作曲されたが、その後、作曲者がオーケストラの部分ピアノに直し、歌いやすい調に移調して1966年に出版した。本日、歌う「大地讃頌」はその楽譜を使用している。

偉大なる創造主（神）があって天地は創られ、人間が創られ、人類は大地の上に棲息することになった。人間は生まれて死ぬ。「土より出でて土に帰る」運命にある。これが厳たる自然の摂理である。世界の歴史は、戦争の歴史であり、しばしば大地は汚された。しかも、核爆の脅威で、我々は、最悪の時到来れば世界絶滅という不安にさらされている。

本来の大自然を思う時、大地回帰の悲願は側々として胸を突き上げる。音楽に託し、心ある人々に訴えようと、このカンタータを制作した次第である。

カンタータ創作の趣意 大木惇夫より

母なる大地のふところに われら
 人の子の喜びはある 大地を愛せよ
 大地に生きる 人の子ら その立つ土に感謝せよ
 平和な大地を 静かな大地を 大地をほめよ
 たたえよ土を 恩寵の豊かな大地 大地 大地
 たたえよ たたえよ 土を
 母なる大地を 母なる大地を
 たたえよほめよ たたえよ土を
 母なる大地を ああ たたえよ大地を ああ